

ローマイヤー博士のご逝去を悼む

福岡 正 巳*

ドイツの土質工学会の長老、ローマイヤー博士 (Dr. Ing. Erich Lohmeyer) が1966年8月5日、81才の生涯を閉じたという知らせをご遺族から受けた。同博士は長い間ドイツの土質基礎工学会の会長をしておられ、国際的にも有名であり、わが国からドイツを訪れた非常に多くの人達もいろいろな意味でお世話になった。また国連の技術援助のコンサルタントとして1955~56年に来朝し、農林省のコンクリートならびにアースダムの基礎についての技術指導をされた注)。

博士の卓抜な識見、高邁な人格、豊富な経験と知識は、人々に畏敬の念を抱かしめるが、また一方、人情に厚く、その温容とともににはなはだ親しみやすく感じられる。

博士の長逝は、ご遺族、ドイツの土質基礎工学会のみでなく、われわれにとっても深い哀惜の念を抱かせるものである。

農林省、愛知用水公団、白石基礎工業岡本氏、令嬢 Barbara さんなどから博士に関する資料をいただき、それにもとづいて博士の業績をたどり偉業をしのびたいと思うわけである。

訃報によれば博士の肩書は次のようになっている。

Ministerialrat a.D. (元建設委員会委員)

Oberbaudirektor i.R. (元土木部長)

カールスルーエ工業大学名誉博士

ドイツ共和国大十字章受章者

DIN 名誉リング佩 (ハイ) 用者

ドイツ土質基礎工学会名誉会長

博士は1886年5月10日ドイツの中部にある Kassel 市に生まれた。1904~9年にハノーバーの工業大学で土木工学を学んだ。

1909年 政府の技師補となり Kiel 地方で水路ならびに道路の工事に従事。

1912年 建築部門、水路ならびに道路工事関係の国家試験に合格。政府技師になり Kiel の運河工事に従事。

1919年 工学博士となる。

1923~30年 プロシアと Stettin 地方港湾連合の土木部長。ハンブルグ=プロシア港湾連合の土木部長。ハンブルグ港の土木部長 (Oberbaudirektor)。

1930年 河川、港湾建設部長となり、ついで、全港湾管理所長。(これは河川と港湾の建設、埠頭管理、水上警察、港湾管理を含む)

1933年 ナチスに参加しなかったため停職。

1934年ベルリンでコンサルティングエンジニア(建築基礎、港湾施設、建築物ならびに交通計画、建築現場の事故、訴訟の鑑定)。この間イランとカナダに出張。

1943 および 45年に空襲を受けた。

1945年 東独政府水路局長。

1948~9年 ベルリンの米陸軍運輸グループ顧問。

1949年以降 コンサルティングエンジニア(水理構造物、港湾構造物、基礎、建築物)。1950年以後ハンブルグに住む。アメリカ、オランダ、ギリシャ、インド、シリア、日本に出張。

1950年 ドイツ土質基礎工学会長。

1960年 病気のため辞任、名誉会長となる。

1940~5年 Die Bautechnik の編集者。

1943~5年 Beton-und Stahlbetonbau の編集者。

1937年 以降 DIN 委員会委員。

以上のように学会方面において広く活躍した。

著書のうちとくに有名なものは「基礎工学 (Der Grundbau)」であり、戦前太田尾氏の翻訳によって紹介されている。これは Brennecke 氏との共著になっているが、主としてローマイヤー博士の書いたものである。

論文、報文の数も非常に多く約 20 あるが、その内容は博士が直接担当された工事、行政管理などに関するものである。

博士はナチスならびに東独のドイツ統一社会党に加入しないという理由で、それぞれ高い官職を退いている。このことから博士は、時の権力に屈することなく、自ら信ずるところに従って行動されたといえよう。

注) 農林省農地局設計課、ダムの基礎処理 E. ローマイヤーレポート、ダム研究資料 No. 1, 1956. 6. 20

この報告書は1954年国際連合食糧農業機構 (F.A.O) と日本政府との間に締結された国連拡大技術援助に関する基本協定にもとづき、ローマイヤー博士が1955年12月2日に来朝され、1956年2月1日まで、農林省ダム地点の基礎処理の問題の調査指導を実施した成果を報告されたものである。博士は当時すでに69才の老令にもかかわらず、壮者をしのぐファイトをもって危険なダムサイトの調査を全うされた態度は技術者の良心というべきで、関係者に大きな感銘を与えた。

* 建設省土木研究所千葉支所長・工博